

「オレンジリング」に込めた想い

サンライズホーム管理者 佐藤利弘さん

オレンジリングは、認知症サポーター養成講座を受けた方に渡されるリストバンドで、現在江東区で約1万3千人の方が保有しています。しかし、これだけ多くの人がオレンジリングを持つていても、普段身につけている人は少ないので意外と知られていません。今回は、そんなオレンジリングのことをもっと知ってもらいたいと思い、認知症サポーター養成講座の講師として長年に渡り活躍されているサンライズホームの佐藤利弘さんにお話を伺いました。

認知症への偏見の払拭には、まずは正しい理解から。

オレンジリングが渡される認知症サポーター養成講座は2005年に始まりました。当時は認知症と言えば「徘徊や暴力をふるって周囲を困らせる人」という先入観を持つていた人がほとんどでしたが、そんな中、サポーター養成講座は、認知症へのさまざまな偏見を払拭するために、認知症の正しい理解者をつくる取り組みとしてスタートしました。

この活動は当初、認知症サポーター100万人キャンペーンと銘打ち5年で100万人を目標に実施しましたが、それは4年で達成され、現在では全国で900万人を超える人がサポーターとなりオレンジリングを持つよう

なっています。

認知症への偏見やマイナスイメージに関して言えば、それは今でも根深くありますが、認知症の正しい理解者を作っていくというオレンジリングの活動は、一般の人の認知症への意識や態度を少しずつ変えてきていると思います。

以前は、「認知症になったらおしまいだ」などと言う人が多くいましたが、今はそのようなことを公に言う人は少なくなりました。また、最近では「私は認知症です」と言う人が出てきて、認知症の本人が自ら発言する機会も多くなってきました。これらは、サポーター養成講座などを通して認知症への理解が確実に広がってきたことにもよるのではないのでしょうか。

認知症サポーター養成講座の内容は、講師によってさまざま。

認知症サポーターの方の多くは養成講座を1回しか受けていないので知らないと思いますが、サポーターになることの意味や意義を聞かれることがあります。それに対して、私はこう思います。「サポーターになることは、認知症になっても暮らしやすい、認知症にやさしいまちの住民になること」だと。

サポーターは、専門職ではないのでケアはできません。ケアをやったら危険なこともあるし、例えば徘徊している人に対し、小学生や若い女性にそのまま声をかけるとは言えません。「あ、危ないな」と思ったら警察なり長寿サポートセンターにつなげることがサポーターとしての役割になります。つまり、認知症サポーターは、認知症のことを理解して、何かあったらできる範囲で相談に乗る、的確に次につなげてあげることができる人です。こんな住民がいっぱいいるまちが、認知症にやさしいまちといえるのではないのでしょうか。そして、そんなまちは、認知症の人だけでなく、きつと、いろんな人にやさしいまちだと思います。

認知症サポーター養成講座は、ご自宅でも開催できます。

江東区での認知症サポーター養成講座は、自分たちが場所を用意して地域の長寿サポートセンターに申し込むと講師がボランティアとしてお伺いする仕組みになっています。受講人数は10人以上していますが、10人以下



ですが、講座の内容は講師によってさまざまです。認知症サポーター養成講座には、そこでしっかりと伝えなければならぬことがいくつか決められています。それをどう伝えるか、それ以外に何を伝えるかは講師に任せられています。テキストは共通なのですが、実際の講座の内容は、講師の個性や考え方で違います。そして、私はそこが良いところだと思っています。通り一遍の講座ではないそれぞれの講師の工夫が、聞く人の関心を高め、それが深い理解につながるからです。

私の場合は、最近の認知症ケアにおける世界の流れである「パーソン・セントラード・ケア」の話しをします。パーソン・セントラード・ケアとは、認知症の人を一人の「人」として尊重して行うケアで、専門職に求められている考えですが、サポーターが認知症の人に接する際にも大切なことだと思うので、サポーター養成講座ではそれを分かりやすく伝えていきます。

オレンジリングを持つことは、認知症にやさしいまちの住民となること。

認知症サポーター制度の行き着く先は「認知症になっても暮らしやすいまちをつくること」であります。認知症サポーターについて

の少人数でも可ということ。場所はどこでもOKです。私は一般のお宅に伺って実施したこともあります。冒頭で江東区の認知症サポーターの数は約1万3千人と言いましたが、この数を5万人まで伸ばしたい。もっともサポーターが増えることで、地域は必ず変わっていくと思います。ここで興味を持たれた方は、友人やご近所の人と、ぜひ申し込んでみてください。講座で皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

最後に、最近は認知症サポーターが集まって勉強会を開いたりするケースもあるようです。せっかくサポーターになったので、もっと貢献したいと思う人たちは、「自分は何をしたいのか」を考えて、ぜひ行動してください。認知症カフェをするとか、お話をボランティアをやるとかやりたいことをしていたらいいと思います。ちなみに、私どものサンライズホームでは、サポーターの人によるお話をボランティアは大歓迎です。お気軽にサンライズホームへお電話ください。



ての一般的な説明は、「認知症サポーターは、何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守る応援者です。」となっています。私がそれを紹介すると、「サポーターになっても近くに認知症の人がいない者はどうしたらいいのですか」とか、サポ



佐藤利弘さん
社会医療法人順江会
認知症高齢者グループホーム
サンライズホーム管理者
主任介護支援専門員
東京都認知症介護指導者